



写真等無断転載禁止

2026. 10. 7 発行 ニュースレター第350号

〒262-0019 千葉県花見川区朝日ヶ丘 5-24-2

TEL. 090-7941-7655 FAX: 043-483-0027 代表: 小西 由希子

E-mail: yatsudasukisuki@gmail.com , Home Page: <http://www.ceic.info/>

Chiba Floods 2026 ～千葉豪雨 2026～

千葉市緑区 James Ryland

まず、この災害によって亡くなられた方々のご家族に、心よりお悔やみ申し上げます。

今回の被害については、国や自治体が気候変動と洪水リスクに真剣に取り組み、千葉市・千葉県が自ら策定した計画や方針を着実に実行していれば、防ぐことのできた犠牲も少なくなかったのではないかと思います。

確かに気候変動は豪雨を激甚化させています。しかし、8月の洪水そのものは予想外ではありません。私がこの地域に住んで以来、同様の豪雨や浸水被害は数年おきに発生しています。今回の洪水は、気候変動による水害リスクを認識しながら、そのリスクを高める土地利用を容認してきた結果でもあるでしょう。

大網白里駅周辺の浸水は、その問題を象徴しています。河川のコンクリート化、氾濫原の開発、森林の伐採、物流施設や工業施設などの建設が積み重なり、土地本来の保水能力が失われ、雨水がより速く河川や排水施設へ流れ込むようになっています。一つ一つの開発だけを見れば合理的でも、地域全体では大きな影響を及ぼします。



佐倉市京成佐倉駅近くのがけ崩れ(2026年9月28日)
報道はされないが、千葉豪雨や台風25号による小規模ながけ崩れは各所で見られる (撮影: 田中正彦)

千葉県には水防計画など多くの計画があります。危険箇所や河川の挙動、緊急時の対応、自然環境保全の重要性も示されています。しかし、森林はなお開発のために伐採され、調整池にも限界がありま

す。物流拠点やデータセンターなどの大規模な舗装も、水の流れを変えています。

必要なのは、流域全体を視野に入れた土地利用です。不浸透面積の抑制、十分な貯留施設、森林保全、重要な流域での開発制限などが考えられます。特に里山は景観だけでなく、雨水を蓄え、流出を遅らせ、水質や生物多様性を支える重要な自然のインフラです。

また、河川や排水施設の能力向上も必要です。計画が存在することと、安全性が確保されていることは同じではありません。さらに、湿地や氾濫原の再生、透水性舗装、グリーンインフラなど、自然を活用した治水対策も組み合わせるべきです。住宅地でも、芝生や植栽、透水性舗装によって豪雨時の排水負荷を軽減できます。

日本のハザードマップは重要な注意喚起となっていますが、リスクが高い場所でも一定の対策を講じれば開発できる場合があります。気候変動への適応を実効性あるものにするには、リスク情報を土地利用規制にも反映させる必要があります。経済活動を進める際にも、防災と環境への影響を地域全体で考える視点が欠かせません。

つまり、8月の洪水は異常気象だけによるものではありません。予測可能だったリスクへの備えが十分でなかった結果でもあります。日本には技術力、科学的知見、制度があります。重要なのは、それらを実際の土地利用や防災対策に結びつけることです。自然を単なる開発の対象ではなく、暮らしを支える基盤として捉えることが必要です。

環境を保全することは、防災のための追加的な対策ではなく、そもそも地域の安全を支える基本的な考え方として位置づける必要があります。環境政策を理想や努力目標として終わらせず、守るべき約束として実行しなければ、同様の災害は再び起こるでしょう。自然を守ることは、同時に私たちの暮らしと命を守ることでもあります。

Chiba Floods 2026 A preventable disaster
Jimmy R Aug 15, 2026

子どもが自然とゆたかにかわるために大人がしなければならない事を考える その6 ～野生生物・馴化生物・培育生物～

子どもと自然学会 船橋市 岩田 好宏

動物園で飼育されているライオンは、野生動物か飼育動物か。いうまでもなく飼育動物です。人間の飼育というはたらきかけがなくなれば生きていられません。野生動物か飼育動物かのちがいは、それぞれの動物に生得的にそなわったちがいでではなく、動物と人間との関係からみちがいです。人間のかかわりなしでは生存できない動物は、英語でいえば human dependent animals ということになります。

植物についても同様のことがいえます。たとえばオミナエシであっても庭園や植木鉢で育てれば栽培植物です。同様に酒造会社で酒づくりに利用しているコウジカビも野生生物ではありません。培養菌類です。この飼育動物、栽培植物、培養菌類(細菌類)を合わせて総称する語はありませんので、それぞれの1字を採用して「培育生物」と造語しました*。

*:岩田好宏.2017.野生生物とその保護.認定 NPO 法人
野生生物保全論研究会編「生物多様性保全と持続可能な消費・生産」71-83.

では、培育生物以外はすべて野生生物かといいますと、そうではありません。沼田眞さんは農地以外の人が攪乱した場所に生息する植物を「人里植物」とよび、栽培植物、農地雑草、野生植物と区別しました。これは、人間による保護などその生育の助成を受けませんが、人間の影響を受けないところでは生存できない植物です。空き地や都市の道端などにみられる植物、田畑の境界などにみられる植物です。そうだとしますと、田畑の雑草のように人間にとって有害であるかどうかを問題にしないで考えますと、人間の影響を強く受けた自然を環境としていますから同じものになります。

このことから農地雑草と人里植物をひとまとめにして、人間世界に馴染んで生活する植物という意味の「馴化植物」ということができます。さらにこのようなものは動物でもみられます。スズメやツバメ、ドブネズミなどです。これらの動物は「馴化動物」といい、馴化動物と馴化植物を合わせて「馴化生物」とまとめることができます。

馴化生物がどのようなものか、一つ例を示します。イヌの場合です。イヌには、人間とのかかわりでカイヌ、ノライヌ、ノイヌの3種類のものがあります。

カイヌは飼育動物です。ノライヌは、人間が飼育しなくなった動物ですが、人間が生活している場所からはなれることなくみられます。比喩的に擬人化した表現でいいますと、まだ人間世界に未練があるという動物です。ノイヌは完全に人間と縁を切った動物です。この3種のイヌが、人間が出現してか

らどのように出現するようになったか、図に表しますと次の①→⑤のようになります。

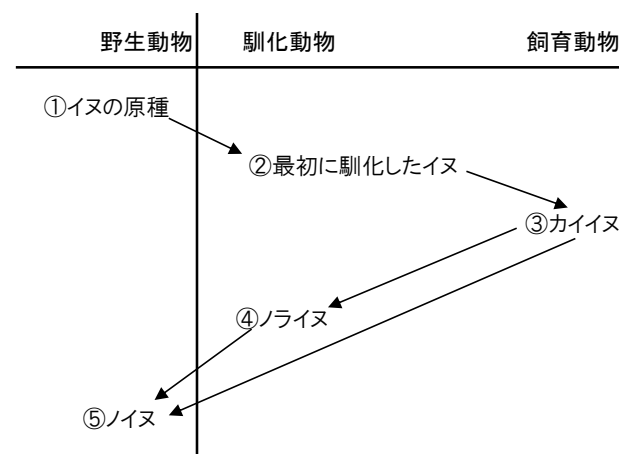


図 6-1 野生のイヌからノイヌまでの3種のイヌの出現過程

イヌの原種から③カイヌまでの過程を説明しますと、まずイヌの原種が行動する中で人間の世界に入るところから始まります。人間に追い払われる危険がありながら食物が容易に得られることから人間の世界の中にとどまるものが現れてきたと考えられます。これが人間の世界に馴化した動物＝馴化イヌです。その後馴化イヌと人間が共存できるようになり、また狩猟の時や、危険動物の襲来の時いち早くその危機を知らせることなどによって食物を与えたり、居場所を定めたりして③家畜イヌになったと考えられます。植物も、最初に畑の作物が雑草という「馴化植物」であったものを栽培するようになったものもありますし、野生植物を馴化植物にならないで人間がその有用性を認めて栽培植物にするものもあったと考えられます。

また畑と林の境界などの境界植生にみられるニワトコという低木は、落葉広葉樹の極相林の中で多年生の草として生育していますが、高層木が枯死してギャップができて林床、草本層が明るくなると落葉低木となり、極相林になるまでの遷移の途中段階で生育という生活のしかたをしています**、これは野生植物です。ところが、人間によってそれらが破壊されて境界植生ができますと、そこに生育するようになったと考えられます。これは、野生植物から馴化植物に転換した例です。里山林のスギ・ヒノキ、クヌギ・コナラなどは栽培植物ですが、その他の植物はすべて馴化植物です(次号につづく)。

** : Abe S. et al. 2008 Population Maintenance of the short-lived Shrub Sambucus in a deciduous Forest. Ecology.

生物多様青年,夏の活動報告

千葉市若葉区 鈴木 郁也

1. 環境科学野外実習Ⅱ(里山) ～尾瀬実習報告～

令和8年8月19日から21日にかけて、東邦大学理学部生命圏環境科学科の実習で、尾瀬に行ってきました。履修者は男子10人、女子5人、引率の先生1人、TA 1人、そして現地のガイドさん2人の大所帯で2泊3日、高層湿原の生物多様性と保全について学びました。

尾瀬は群馬県、福島県、新潟県、栃木県にまたがる高層湿原であり、実習を行った尾瀬ヶ原は、四方を2000m級の山に囲まれ、湿地帯でも標高が1400mもあります。山なし、クマなしの千葉で育った私にとって、見るもの全てが新鮮に感じました。今回はほんの一部ですが、この感動を文章でお届けできればと思います。

<行程>

1日目は、群馬県側の鳩待峠で昼食を摂った後、宿泊する山小屋がある山の鼻まで歩きました。本来は、新潟県側の東電小屋に宿泊する予定でしたが、諸事情により尾瀬ヶ原の入り口にある至仏山荘に変更になりました。例年よりも楽な行程になりましたが、正直助かりました(汗)。また、ゆっくり自然観察の時間がとれたので、ただ歩くよりも格段に濃密な時間を過ごせました。山小屋に着いて夕食・入浴を

済ませたら、ライトを持って夜散策に出かけました。雨が降った後で羽アリが大量に湧いていたのが厄介でしたが、羽アリを食べに来たアズマヒキガエルが足もとに現れたり、林をライトで照らすとシカの目が光るところも見られました。

2日目は、日の出頃にまた山小屋付近を散策し、朝食後に一日かけた尾瀬ヶ原散策に出かけました。群馬県の山の鼻から出発、福島県側の見晴を経由し、新潟県の東電小屋を見て、再び群馬県に帰るというルートで、反時計まわりに3県を巡る計10km以上の自然観察行でした。

3日目は、早朝に至仏山に続く道の側にある研究見本園を散策しました。植物の移植等によって、尾瀬の植生を一通り見られるように整備されたエリアで、サワギキョウの群落や池塘(水たまり)の浮島などが見られました。

その後、荷物を持って鳩待峠まで、二日前に降りてきた山道を、今度は登って帰ることになりました。

3日間、降ったり止んだり空模様が不安定でしたが、晴れた時の空の澄み渡り、緑の反射の美しさは筆舌に尽くしがたく、カメラを向けたもの全てが画になるように感じました。

2. 環境アセスメント学会第25回大会参加報告

9月4・5日に東邦大学にて開催された環境アセスメント学会第25回大会に参加しました。首都圏での開催ということもあり、昨年(名古屋大学)に比べてたくさんの方々が参加されていました。今年度の大会テーマは「地域共生型の洋上風力発電



の実現に向けて～合意形成・価値創出～」です。

今回は発表を傍聴するだけでなく、ポスターセッションにて学生部門で発表しました。ちば環境情報センターの小田信治理事と共同で「千葉市環境影響評価条例に係る大規模面開発事業の事例研究」をテーマに、開発計画に対する千葉市アセス条例の手続きと市民意見及び千葉市長意見の分析を基に環境保全上の課題について解説しました。多くの方々から高い関心をもって聞いていただきました。

大会2日目の午後は、東邦大学からバスで移動し、銚子でのエクスカッションに参加しました。銚子の街と海岸線を一望できる「地球の丸く見える展望台」にて、着床式洋上風力発電機の試験機を視察し、洋上風力発電事業に携わっている現地の方々と交流を行いました。

新浜の話 104 ～鳥インフルエンザ～

マスクと手袋をものものしくつけたおまわりさんが、「さっき電話したメジロなんですけど」と袋を持って来られました。様子を見ようと袋に手を入れると、「えっ、素手で？」

鳥インフルエンザの風評。「ほら、頭と尾がどちらも左に曲がって見えるでしょう？体が弓なりなの

千葉県野鳥の会 市川市 蓮尾 純子

は、衝突で頭を打った時の典型的な症状なんです。それに、これが鳥インフルエンザにかかっていたとしても、人には感染しませんよ。こうして私とお話ししている方が、よっぽど危険です。お互い、人間のインフルエンザウィルスを保菌しているかも知れないんですから」

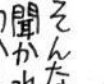
作: 7やま
7 あきひこ

ボクは何者
なんだろっ？



何をしに
この世に生まれて
きたんだろ?

スローマン、
ボクは人生で何が
やりたいんだろうか？



ハハハ

そんなあむずかしいこと
聞かされたって
わからないよ

過去も未来もない。
ボクは今、出来る
ことを楽しみながら
やるだけ。

ルンパ
ルンパ

秋冬野菜の
種まき中 →



〈作者談〉

ごくごく身近な存在のウィルスや細菌、その他様々な原因で生じる病変。人間の医学の発展はめざましく、かつては死の宣告だったガン告知も、今では2人に1人が罹患する身近な存在で、克服できる場合も年々増えています。それでも鳥インフルエンザが発生した鶏舎は全数殺処分、家畜の口蹄疫も同様でしょう。近年むしろ増えてきたと言われる発生件数。釧路の齊藤慶輔さんがやっておられる猛禽類医学研究所では、ワシ類の鳥フル治療と全快・放鳥例があるとか。鳥インフルエンザが克服される日はいつか来るのでしょうか。

【発送お手伝いのお願い】ニュースレター2026年11月号（第351号）の発送を11月 9日（月）10時から千葉市民活動支援センター（千葉市中央区中央2-5-1 千葉中央ツインビル2号館9階）にてこなう予定です。お手伝いいただける方は小西 090-7941-7655）までご連絡ください。

住所〒
ふりがな
氏名 Tel

編集後記：千葉豪雨や台風 25 号によって、千葉県はかつて経験したことのない自然災害に見舞われました。被害にあわれた方には心よりお見舞い申し上げます。元の暮らしに戻るのには時間がかかりますが、今後のまちづくりをどう考えていくか大きな問題です。災害が人間活動にも起因していることを真摯に受け止め、暮らし方を再考していくことも必要です。 mud-skipper

長雨で2度延期になってしまい、大勢必要なボランティアが足りなくなってしまうそうだったのですが、YPP 関連の皆さんに急遽声掛けをしたところたくさん来てくださり、無事稲刈りを行うことができました。4 クラス約 120 人の子どもたちは半分に分かれて稲刈りと自然観察をしました。稲刈りはケガをしないように大人がマンツーマンで付きました。鎌を手に最初は恐る恐るでしたが、刈るうちに要領がわかって笑顔で刈っていました。一度終わってももっと刈る子もいました。自然観察では大きなザリガニから小さなゲンゴロウの幼虫まで発見がいっぱい。田んぼでの最後の作業をみんな楽しんだ様子でした。

☆第 249 回 小山町 YPP「稲刈り①」 2026 年 9 月 23 日（水・祝）雨 報告：柳町健治

雨で延期になり、この日の天気予報では終日曇りの予報でしたが朝から終日雨で気象庁に恨み節を言いながらもアカガエル田んぼの「はたはったん」という自然栽培に適した品種の稲刈りをしました。お手伝いの方も 2 名参加してくださったおかげで雨の中無事稲刈りを終えることができました。 参加者 6 名（大人 6 名）

【谷津田・季節のたより】 2026 年 9 月

<下大和田町> 報告 平沼勝男

9/6 森の中は連日の雨でキノコ類が目立つ。お饅頭に似たノウタケ。キノコらしい形のテングタケの仲間、朽ちた木に美しいマンネンタケ。小雨の中、枝先にとまるナツアカネ。まだ十分赤くなっていなかった。他にノシメトンボも。田んぼに出るとシオカラトンボが縄張りを主張。小川ではハグロトンボが早入り乱れて飛んでいた。小雨をものともせず繁殖シーズン最後のにぎわい。ミスジマイマイも元気そうだった。

9/23 まだ小川の水位が高く近づけなかった。足元からキジの♂が飛び立ち、驚く。カケスがジャージャーと鳴き活発。ウグイスは地鳴き。コゲラ、シジュウカラ、ガビチョウの鳴き声を聴く。稲刈りが終わった田んぼでコナギの花が咲いていた。林縁ではススキの穂が出ていた。クロコノマチョウ、ヒメジャノメ飛ぶ。ミスジマイマイはこの日も元気だった。

<小 山 町> 報告：高山邦明

草花の開花：9/ 4 ヌルデ、9/ 8 キバナアキギリ、9/19 チカラシバ、ヒガンバナ、ウド、ヨシ、9/22 ミゾソバ、9/24 アメリカセンダングサ、ヤブマメ

観察記録： 9/ 1 稲刈りが終わった田んぼにオオタカに襲われたらしいキジバトの羽根が散乱していた。オオアオイトンボの姿をよく見かけられるようになる。9/17 田んぼの水の取り入れ口に大きなオニヤンマのヤゴがいた。

9/19 クモヘリカメムシが大量発生して緑米や赤米の稲穂に付く、ホタルガが飛ぶのをよく見かけられるようになる。

9/23 林からシュレーゲルアオガエルの弱々しい声がした。9/24 日中陽ざしが出てくるとツクツクボウシに加えて、ミンミンゼミとアブラゼミが鳴き出す。9/25 あちこちでモズが高鳴き、稲刈りが終わった田んぼに全身深紅のナツアカネの姿。

【イベントのお知らせ】主 催：NPO法人 ちば環境情報センター

<下大和田谷津田> 連絡先：小西 TEL. 090-7941-7655 , E-mail : yatsudasukisuki@gmail.com

・第 321 回下大和田 YPP「古代米の稲刈り」

日 時：2026 年 10 月 17 日（土） 9 時 45 分～12 時 雨天の時は 18 日（日）に延期

内 容：5 月 9 日に田うえをした緑米と赤米を収穫します。

持ち物：長靴、長袖長ズボンの服装、軍手、帽子、飲み物など 参加費：無料

・森と水辺の手入れ&森の手入れ

日 時：2026 年 10 月 18 日（日）、25 日（日） 9 時 45 分～12 時 雨天中止

内 容：稲刈り後の田んぼや自然観察路、駐車場の整備を行います。

持ち物：長袖長ズボンの服装、軍手、帽子、飲み物、午後まで活動する方は弁当、敷物 参加費：無料

・第 322 回下大和田 YPP「古代米の脱穀」

日 時：2026 年 10 月 31 日（土） 9 時 45 分～12 時 雨天の時は 11 月 1 日（日）に延期

内 容：オダガケして天日干しをした緑米と赤米を脱穀します。

持ち物：長靴、長袖長ズボンの服装、軍手、帽子、飲み物など 参加費：無料

・第 321 回 観察会とゴミ拾い

日 時：2026 年 11 月 1 日（日） 9 時 45 分～12 時 雨天決行

内 容：秋本番。木の実・葉の色付きを観察しながら秋たけなわの森と谷津を巡ります。

持ち物：筆記用具、飲み物、長靴、帽子、ゴミ袋、敷物 参加費：100 円

<小山町谷津田>

▼第 250 回 小山町 YPP「脱穀①」 はたはったんや黒米の脱穀をします。

日 時：2026 年 10 月 18 日（日） 9 時～12 時

場 所：小山町谷津田（千葉市緑区）

持ち物：軍手・マスク（ホコリ除け）・飲み物

▼第 251 回 小山町 YPP「稲刈り②」 最後に残った緑米の稲刈りをします。

日 時：2026 年 10 月 31 日（土） 9 時～12 時 ☆小雨決行

場 所：小山町谷津田（千葉市緑区）

持ち物：長靴（できれば長めの田んぼ用）・軍手・飲み物

☆どなたでもお気軽に参加いただけます。初参加も歓迎です！参加のご希望、お問い合わせは、ceic.ypp.oyama@gmail.com までメールでご連絡下さい。

